PR

おはようございます

JA上伊那　美篶手良支所
金融共済課　福永（ふくなが） 遥輝（はるき）

現在、私は共済担当（ライフアドバイザー）として、地域の組合員・利用者さまへの使命感を持って業務にあたっています。人生にはさまざまなリスクが伴います。これに備える方法の一つとして、共済があると思います。組合員の皆さま・地域の皆さまの「もしも」の時の支えになれるよう、責任を持って情報をお伝えしていくことがライフアドバイザーとしての私の使命です。

健康Q&A

画像診断を専門とする診断医と、主にがんを治療する治療医で構成

ドラマで話題、放射線科とは？

Q 放射線科って何をする科ですか？（40歳、女性）

A 放射線科は、放射線を利用した画像診断や治療を行う科です。画像診断を専門とする「放射線診断医」と、放射線治療を専門とする「放射線治療医」がいます。

放射線診断医は、CTやMRI、核医学検査、血管撮影といった検査に関わっています。実際に機器を操作して撮影するのは、診療放射線技師になります。放射線診断医は、適切な検査が行われるように指示を出し、撮影された画像を丁寧に観察し、解析を行い、必要な情報を取り出し、主治医に結果を報告します。これを「読影」と呼んでいます。

放射線治療医は、大きなエネルギーのX線を利用して、主に「がん」を治療します。主治医からの依頼を受け、どのようにX線を照射すればがんを治療し、かつ、がんの周りの正常組織のダメージを少なく抑えられるかを考えて、治療の計画を立てます。

放射線科医が皆さまにお会いすることは少ないのですが、より良い診療に寄与するために、地道に頑張っております。

最近では、放射線科を舞台とした「ラジエーションハウス」という漫画があり、ドラマ化されています。放射線科医や診療放射線技師の仕事に興味があれば、ぜひご覧ください。

（JA長野厚生連長野松代総合病院
放射線科部長　村田理恵）

お知らせボード

★「信鮮！信旬！」応援メッセージ募集

ＪＡ長野県グループは「信州の新鮮な農畜産物を旬の時季に楽しむ」をコンセプトに「信鮮！信旬！信州の農畜産物を買って応援・食べて応援キャンペーン」を展開中。ＪＡ長野中央会のウェブマガジン「長野県のおいしい食べ方」では各地の生産に携わるＪＡ青（壮）年部員を紹介し、応援メッセージを募集。抽選で各JA・青（壮）年部員自慢の農畜産物をプレゼントしています。

現在は8日まで肉セット（提供：ＪＡみなみ信州）。続いて花（同上伊那、9日～22日）ブドウ（同グリーン長野、23日～9月12日）リンゴ（同あづみ、9月13日～26日）コメ（同信州うえだ、9月27日～10月10日）を予定しています。詳細は右記QRコードで。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

持続可能な地域社会へ
JAは取り組んでいます

5 ジェンダー平等を実現しよう
8 働きがいも経済成長も
15 陸の豊かさも守ろう
17 パートナーシップで目標を達成しよう

援農ボランティア募り続けて延べ1000人超

農業で得る働く喜び

農業現場の実情を伝えようと、子どもから大人まで幅広い年代を対象に、体験教室などさまざまな取り組みが盛んです。中野市で家族と「のろまん農場」を経営する田中泉さんは、夏場の繁忙期を中心に大学生ら援農ボランティアを募り30年近く。「農業は労働そのものに喜びがある」と語ります。

のろまん農場を支える田中泉さんの家族。左から夫・久一さん、泉さん、嫁・陽子さんと孫・桃之助くん、長男・球太朗さん。4月の霜害で空いた時間を利用して球太朗さんが作ったピザ窯の前で

中野の「のろまん農場」

田中さんは1989年、JA全農長野（当時は長野県経済連）に大卒女子総合職第1号として就職。東京・大田市場内に同年開設された東京販売事務所に勤め始めました。しかし「やっぱり実際に農業に取り組みたい」と、職場の先輩でもあった夫・久一さんが就農するのに合わせて3年で退職。中野市にやってきました。

「義父は米、麦に野菜、果物（リンゴ、桃）などいろいろなものを作り、繁殖豚など生き物も飼っていました。自給自足を基本とした昔ながらの〝良い農家〟をしていました」と田中さん。久一さんとともにその精神を受け継ぎ、桃畑を広げ、経営の中心にしていきました。

依頼先 徐々に拡大

援農ボランティアを呼び掛ける直接のきっかけは、長女に続く長男・球太朗さんの誕生。「夏場に向けて忙しくなる6月の出産。嫁に来てまだ2、3年。育ち盛りの幼児に乳飲み子が加わることで身動きが取れず、居心地が悪かったんでしょうね」（田中さん）。大学時代の恩師を頼り、赴任先の大学の農業サークルを紹介してもらい、応援を募りました。

「最初は2人だったでしょうか」。同じように1人、2人と受け入れているうちに、義父がガンで余命いくばくもないことが判明。長男に続いて2年後には次女も授かり、いよいよ手が足りなくなりました。援農は夏中、1週間交代で3人ずつ受け入れる態勢に。2000年代前半、就農10年目の頃からです。学生時代の同僚や先輩が全国に広がることで、声を掛ける大学も増え、現在では10校ほどに広がりました。

主に依頼するのは、農場の柱となっている桃の収穫と荷づくり作業。はねだしの桃は食べ放題、持ち帰り放題との特典はありますが、ボランティアですから農場までの交通費を含めて無報酬です。それでも6月にブログで募集を掛けると3日ほどで定員に達してしまう人気ぶりです。

【のろまん農場】「農」のロマンと、自然の秩序とサイクルに合わせて「のろまんま」に生きよう―との意味を込めて命名。桃（2・2ヘクタール）を中心にリンゴ（38アール）、米（30アール）などを栽培。自家製の堆肥を使い、農薬の使用は極力避けるなど循環型の農業を心がける。夏場を中心に受け入れている援農ボランティアは「仲間との共育ちの場」で、彼らの目が、ほとんどを直販する桃をはじめとした農場の生産物への「信頼を高めてくれている」と田中さんは語ります。ホームページは右QRコードから。日常の様子をつづったブログ「のろまん日記」も掲載されています。

夏場の作業 すぐに定員に

農閑期には催しも

これまで受け入れてきた学生は延べ1000人以上。援農をきっかけに生まれたカップルや、その後の出産を経た経験者がママ友としてつながり直すなど〝卒業生〟によるコミュニティーができています。背景には、夏場の援農募集だけでなく冬の農閑期に、宇宙飛行士から農家に転じた秋山豊寛さんを招き参加者が語り合う塾（信州元肥塾）を開くなど、多彩な活動を展開してきたこともあります。

そうした中に訪れたコロナ禍。2020、21年は援農募集をやめ、学生たちがいない夏を過ごしました。田中さんにとっても、自身の農場で目指す農業の意味を深く考えるきっかけになりました。再開した昨年からは卒業生向けのワーケーションも始めました。それぞれが勤め先で、農場でのワーケーションの意義をプレゼンした上での参加です。参加者の意気の高さがうかがえます。

「（援農ボランティアの）最初は純粋に労働力を求めた結果でした。それがだんだんと、『労働力』だけじゃあないんだなと。コロナで2年、休んでみて、特にそう感じるようになりました。その時期は、ちょうど、成長した長男がパートナーを連れて就農してくれたので労働力的には足りていたんですが、何か物足りなかった」と田中さん。

「のろまん農場の無農薬・減農薬栽培も、援農ボランティアの受け入れも、それ自体に意義があり楽しいからやっているのであって、付加価値や体験価値づくりを目指すものではありません」と断った上で、「農業は労働そのものに喜びがあり、お金と直接結びつかなくても、労働の価値を見出せます」と田中さんは胸を張ります。

今年は4月の遅霜で、開花期に当たった桃やリンゴが大打撃を受けました。田中さんは「リンゴはほぼ壊滅。桃は半作です」と惨状を語りながらも、「結果的に、道を楽しむという字義通り、『道楽』として農業ができたら最高だ」と長年主張してきた理想が一気に現実となりました」と笑います。

今期は空いた時間を利用して、長男夫妻に引き継ぐ農場の方向性を探りつつ、OG・OBらを訪ね歩くことを考えています。「いっそ、呼んじゃおうかな」とも。

孫の桃之助くんと援農ボランティアでやってきた学生たちの記録の分厚いファイルを見ながら振り返る田中さん

食と農で地域に笑顔をつくります
～次代につなげる農業・組織・経営基盤の確立

JA長野県
JA長野中央会　営農農政部
〒380-0826　長野市北石堂町1177-3
TEL.026-236-2030　FAX.026-236-2008

いいJAん！信州
https://www.iijan.or.jp/

長野県のおいしい食べ方
公式Twitter